

中田國書新聞

2006年8月1日發行

本谷氏、芥川賞四度目の一歩及ばず

な前にわテい一回と品務極とのか然もつなる作8果でく
もにはる。向を推す宮芸独だ大いくこの品て月と芥
の拒。マカに嘆作測読する本は善が家で選こ8と文25な地伊川
を何否あのた内い品さみし。輝石的、ぞふ評で月選藝日。元藤賞
讀の反わ健や容てのれ通い石先原と個ろれのけ10評春発だに氏は
ま因應な全宮におテるしか原生慎い性いるた、日が秋壳。はと本
さ果。いさ本はしマ。てら知に太う的だ。の作発掲り。受残い谷
れで何テに先いまの評いか事お郎かとかじし品壳載月さ
ねこ年1こ生らい小はな、はい知、いらすみで。さ号き作なこで
けんかマだはな。さ毎い作公て事そう當れには れにだは結とな

日経のスクープではじ
て、靖国問題は政界
だけではなく、書店の店
頭を賑わしている。店
反対派の論客は東大の
高橋哲哉。肯定派の巨
頭は上坂冬子女史。新
書で靖国問題と戦争
を知らない人のための
靖国問題を上梓し、そ
れぞの読者に浸透中。
これを機会に新刊を読
者を獲得すれば、日本化
セミナーは义至。

「ればならぬのか」といふ二方と対極にゐる作家には村上龍先生。後輩の態度には人柄の強さとしさを感じさせられる。丁寧なうござんばりで綿矢りさに交り際を迫つたといふ、『傳芳』先生は恐い。

子と境遇が似ている。
ところで日本人は名将の言葉を押し戴くのが好きだ。なぜだろう?
名将になりたいからか?
名運手义すしも名将となはず」といふから両方ともいふわけにはいかない。
オームの言葉を読みながら自分がどのタイプに該当するかを考えるのは悪くはない。
まだ期待が大きい分、
ころに響く。

それは川端会長の御言からはじめました。オームの言葉は一晩のうちに討論語よりも有名な箴言集となつた。丁度みるとオームは皆が高く泰然としていて、ピック上の孔子といえなくもない。孔子さんは二メートル近い大男だつたし、オームはユーロスラビアの解体のさなかに

芥川賞・直木賞 決まる
芥川賞に伊藤たかみ氏
直木賞は2作が受賞！

中田図書新聞

主な記事から

◆靖国対決のゆくえ
◆オジムは孔子様か
◆新書ザームの謎

今用の掘出モノ

著者向理に有り組立ては論理に有ら。大湖の十架に軍配は建築家が梅原猛の出で古代史に對決する。

潮社の意中の建築は、堂宇の建築が、レバーリーと称す。金沢の魅力再発見ともいふものが、ここにはあります。

近が井守でよ上あげがはく壳金原れひといる。理最
な迷彼の宮の描画集を入手して、そこがつてきて、レるが、
いへ迷いこもうでには、ひとつ人知れず、一般的の認知度も

新書アートの謎をとく

新書ブームの立役者は、新御三家。筑摩書房専務の松田哲夫氏は、新潮社「波」紙上で次の上うほ分析。新潮書房、文庫仕事

書、七月新書は編集力がすぐれてゐる。適切な時期に適切な内容をとことつまり口こうセラ一からべストセラ一への方向転換といふところで本家は、岩波、中公、講談社です。岩波は装丁の変更で巻き返すつもりが、

ここで新書を一冊

印法隆寺の謎をとく
武澤秀一／ちくま新書

訂正 五段三行目

湖の十字架→隠された十字架

湖の二字架

木下 隠された十字架

